

AZABU ALPINE CLUB

ALUMNI NEWSLETTER

麻布学園山岳部 OB 会報第八号 - 2007 年 6 月 15 日 - 発行者 AAC OB 会事務局

会員の皆さん、お元気でお過ごしでしょうか。ほぼ1年ぶりの会報です。昨年は AAC が 60 周年を祝い、山荘のリニューアルも大いに進みました。また今春には、現役部員が 20 名を超えました。大所帯となった部員の安全な活動をしっかり支援できるように、OB 皆さんのご協力がますます大切になっています。

創部 60 周年記念事業のご報告



■ 記念式典・パーティー

2006 年 11 月 25 日、四谷のスクワール麹町にて開催されました。参加者は麻布学園校長の氷上先生、マナスル初登頂者の日下田実さんから来賓 6 名、OB 会会員・特別会員 50 名、部員と父母 39 名を数え、大変に盛会でした。当日の写真などは、ホームページをご覧ください。

< <http://www.a-a-c.net/ob/report/report2006.html#sixty> >

■ 「岩燕」発行

記念式典にあわせて、部報『岩燕』第 9 号が 350 部発行されました。すでにお手元に届いていることと思います。

■ ボゴダ峰 BC トレッキング



2006 年 8 月 1 日から 9 日まで、会員 12 名、会員の子弟 3 名が参加し、中国新疆ウイグル自治区のボゴダ峰を間近に望むベースキャンプまで、充実したトレッキングを楽しみました。

■ 募金

昨年、会員および関係者に呼びかけた募金には 62 名の方々が応じて下さいました。その会計報告は次のとおりで、去る 5 月 19 日の総会で監査結果が承認されました。

収入の部		支出の部	
寄付金	980,000	パーティー会場費	372,127
来賓寄付	10,000	「岩燕」制作費	481,425
パーティー会費	402,000	集合写真	8,000
「岩燕」代金	7,000	来賓お土産	17,640
		功労者記念品	90,000
		写真パネル	6,930
		ポロシャツ	201,700
		文具雑費	15,342
		郵便代	36,600
		「岩燕」送料	29,210
		手数料	1,836
		会合費	12,017
		二次会補助	27,925
計	1,399,000	計	1,300,752
差し引き収支（一般会計に繰り入れ）		98,248	

2007 年度総会開かれる

5 月 19 日（土）、麻布学園相模湖記念室で総会が開かれました。今年は会長と理事長の改選の年ですが、三島会長、宮崎理事長が 2007 年度に限り留任することが決まりました。その他の議事については、ホームページをご覧ください。

< <http://www.a-a-c.net/ob/report/report2007.html> >

■ 三島会長の挨拶

5 月 19 日に開催された今年度総会で、会長及び理事長の改選議題が審議され、理事長の宮崎氏と共に 1 年間の限定で再選されました。理事の任期は 2 年ですが、会長と理事長は 3 年です。今年は会長、理事長の改選期で、人選をいろいろ検討し打診しましたが不調に終わりました。そこで特別の処置として、今年度に限定して三島、宮崎が留任することにした次第です。何故 1 年間の限定なのかについて以下に説明します。



1. これまで 10 年以上全体の執行責任者（会長、理事長）を、昭和 30 年代前半卒の会員で実施して来ました。その結果、若手会員との乖離が慢性化し、創部 60 年を経て“会も老化現象”をきたしています。当会の良き伝統である“古参も若手も一体で運営”を傳承して行くために、執行部を早期に、より若手へのシフトが不可欠です。次期を担うべき年代層は、昭和 40 年卒前後を含め、40 年代前半の会員です。若手の意向を汲んだ若手による会の運営が必要な時期にきています。
2. そこで改選期である今年には、是非“若返り”を実施したいところですが、不調に終わりましたので、今年 1 年掛けて適切な移行体制を検討し準備をしたいと思えます。上記の卒年代層会員の方々には、当会の発展充実のため趣旨をよく理解され、AAC への恩返しで積極的な取り組みを期待します。また、若手会員からもシフトの声を大きく上げて頂きたい。そして現在若手会員が担当してくれている立派なホームページ管理、ニュースレター発行、山荘の管理運営などとの連携をしっかりと確保していくことが大切です。

また、この 1 年間で現在の“老化現象”をきたしている点を何とか改善したいと思います。その主な点は、①理事会の形骸化 ②会費納入不足の慢性化 ③山荘収支赤字の慢性化 です。これらを今年 1 年で改善の道筋をつけたいと考えています。皆さんからも積極的にご提案とご協力をお願い致します。

会員往来

■ 訃報

昨年は会員お二人が亡くなりました。心よりご冥福をお祈りいたします。
橋本龍太郎さん（昭 31 卒 = 右）、
佐藤義昭さん（昭 33 卒 = 左）。



■ 新入会員

今春、麻布を卒業した 4 名が新しく会員になりました。藤森 俊君、高橋智也君、橋本昌典君、柴山健太郎君。

■ 谷垣会員が日本山岳ガイド協会会長に

会員で前財務大臣・衆議院議員の谷垣禎一さん（昭 38 卒）が、去る 1 月、（社）日本山岳ガイド協会の会長に就任しました。また谷垣さんは、5 月 12 日（土）に麻布学園の PTA で「麻布と私」という演題で講演をしました。

AZABU ALPINE CLUB

ALUMNI NEWSLETTER

麻布学園山岳部 OB 会報第八号 - 2007 年 6 月 15 日 - 発行者 AAC OB 会事務局

会員近況

できるだけ幅広い会員の近況をお伝えして懐かしい仲間のことを思い出していただこうと、前号からこの欄を設けました。今回は、昭和 34 年卒業の方から 10 年ごとの OB にメッセージをお願いしたところ、7 名の方から寄せられました。早速ご紹介します。

■ 古川 紘次さん（昭和 34 年卒）

私たちは AAC の大先輩、亡くなられた中村太郎さんや小倉茂暉さんに登山で直接お世話になった最後の世代とあって良いでしょう。心からご冥福をお祈りいたします。今でも中学・高校時代の思い出は山岳部の活動しかないくらいです。



私は、50 歳になって、山登りを再開しました。今では日本 300 名山も中部以北はほぼ踏破、合計は 200 座以上となりましたが、これにはあまりこだわっていません。5 年前の 61 歳のとき、アフリカのキリマンジャロで、海外登山を初体験しました。昨年 8 月はヒマラヤのあまり知られていない山 6086 m を目指しましたが、これは残念ながら登れず、失敗でした。しかし、白銀のアンナプルナ連峰を見る楽しい 1 ヶ月の登山でした。6 年前からゲレンデスキーも楽しむようになり、下手ながら平日のスキー場を思い切り滑ることを覚えました。狭心症の持病を無視して遊んでおります。<url: <http://www4.ocn.ne.jp/~furu159/>>

■ 横地 泰英さん（昭和 34 年卒）

- 2000 年 ヒンズークシュ 6800m 峰登頂
- 2001 年 朝日新聞社「卒業」
- 2001 年 カラコルム 7000m 峰（アタック目前、悪天候で断念）
- 2002 年 食道がんで食道全摘
- 2003 年 喉頭がんで喉頭摘出



... ということで、疾風怒濤のような「定年後」でありましたが、どうやら 5 年を経過し、「生存」の見通しが見えてきました。

僕にとって AAC で山登りを始めたことは、一生を決める契機になりました。大学山岳部の 4 年でペルーアンデスへ。帰国後新聞記者になったのも、登山がひとつの契機でありました。妻とめぐりあったのも、北アのひざ元、松本。終の住みかも、山のふもとに。手ほどきして下さった故中村

太郎さんはじめ、諸先輩、AAC の仲間へ厚く御礼いたします。

■ 林 恒生さん（昭和 44 年卒）

かつては同期の皆さんはもとより諸先輩・後輩の皆様にお付き合いをさせていただきました。1974 年に現在のクラリオンに入社し、その 4 年後に大学の山岳部の仲間とマッキンレーに参りまして以降は、本格的な登山の機会を失い、また世の中の道理で歳を重ね 56 歳になりました。会社では 1994 年にアメリカのミシガンに駐在し、その後続けてフランス、ハンガリーと駐在を重ね 2001 年に帰国を致しました。帰国後 6 年になりますが、不精な性格がゆえに皆様のご活躍を存知ながらご無沙汰が続けております。現在は常務執行役員としてビジネス企画・マーケティング系の仕事を担当しております。世代としてはベビーブーマー直後の年代ですが、数年先輩の方々が第二の人生をスタートさせようとしている昨今、私もショートカットしてそろそろ・・・など考えるこの頃です。疎遠しておりますとなかなか近づきにくくなりますが、勇気をもってご挨拶をさせていただきたく考えております。よろしくお祈りを申し上げます。



■ 森 美文さん（昭和 44 年卒）

(財)日本自然保護協会の研究員をやめ、森環境教育事務所を起してから今年でちょうど 10 年目です。自然保護協会時代は国定公園のレンジャーとして丹沢や高尾山へ出向していました。そのため独立後は、環境教育の施設企画やソフト作成のコンサルと人材養成を主な仕事としてきました。米国国立公園局のインタープリターのトレーナー研修も終え、今では、7 つの団体の環境教育、野外活動の指導者の資格認定も行っています。大学では大東大や鶴見大などで、環境教育、自然保護論、野外体験活動を教えています。最近では、幼児の自然体験に注目が集まっており、短大の児童教育学科で、自然体験活動指導者資格を取得できる授業を始めたところ、とても好評です。



■ 矢部 博道さん（昭和 44 年卒）



このところ世の中の変化が激しいですが、時代に流されないよう頑張っています。昨年は、ご好意により、子供 3 人が 60 周年記念ボゴダ峰登山に参加させていただきました（本人は体力に自信なく、パスでしたが）。これからはダイエットと体力づくりに、心がけようと思っています。お世話になった大先輩の訃報に接するたびに、時の流れを感じております。これからも、OB、現役との楽しい交流を期待しております。

■ 井上 比佐史さん（昭和 44 年卒）

学校を出て（高校はたしかに卒業したが、大学は卒業していない）、35 年ほどになる。その間、5 社に勤務した。現在は、56 歳の私を筆頭に 36 歳から 22 歳まで 7 人の出版社に在籍する。会社は、佐藤則秋（ヒモ）さんの大学時代の友人である田辺さん経営の割烹屋「菊水」から徒歩 10 分ほどにある。近くにお越しの節はご連絡賜りたい。菊水にご案内する。休日は早朝、車を駆って関東、中部、東北の山岳地帯に分け入り、温泉につかる。20 代前半のいつからか忘れてたが、山を見ることはあっても登ったことはない。きわめて使い途のない OB である。やや鬱々気分の中高年を迎えている。

勤務先電話 03-3233-1967。メール：inoue@kensetsunews.com。

■ 塩田 純一さん（昭和 44 年卒）

麻布では美術などまったく縁がなかったのに、何の拍子か美術館勤め、いつのまにか 30 年近く経ってしまいました。いわゆる学芸員という仕事。宇都宮の栃木県立美術館を振り出しに、世田谷美術館、東京都現代美術館の両美術館を立ち上げ、現在は白金の旧朝香宮邸を改装した東京都庭園美術館の副館長。つい最近、山男ならぬ船乗りで 70 歳になってから絵を描き始めたアルフレッド・ウォリスというイギリスの画家の個展を企画しました。この夏にはロシア・バレエの展覧会。どうかお気軽にお立ち寄りください。山に行く機会は殆どないのですが、なぜか自然の中で制作するイギリスの現代作家と意気投合。9 月にはこれらの作家についての評論集「イギリス美術の風景」を出す予定。

事務局連絡先：

藤田 信一 ■

おことわり：岡田健さん、高久裕輝さん、鈴木順二さん、古川紘次さん、細島進さんの写真などを使用しました。

